

## (参考) 算出方法について

「令和7年度里山広葉樹林の利活用に向けた資源量把握等調査委託事業 委託報告書」から抜粋

### 2.3.1 全国的な広葉樹資源量の把握

#### ① 全国蓄積

広葉樹 32 分類 (樹種分類) について、NFI 第 5 期の調査データを用い、全国レベルでの資源量として蓄積を推定した。

蓄積の算出は、以下の手順で行った。

##### (ア) 樹高未測定木の樹高推定

立木調査における樹高未測定木の樹高については、標準木の胸高直径と実測樹高の関係から近似式を作成し、当式に当てはめて推定した。

##### (イ) 単木材積の計算

単木材積は、林野庁計画課編「立木幹材積表 東日本編・西日本編」(日本林業調査会発行、1970年)に記載された樹種別の材積式を用いて算出した。記載のない樹種については、形質的に近いと思われる樹種の材積式を適用して単木材積を算出した。

##### (ウ) 蓄積の計算

NFI の立木調査では、胸高直径 1cm 以上 5cm 未満の立木は 0.01ha の小円内、5cm 以上 18cm 未満の立木は 0.04ha の中円内、18cm 以上の立木は 0.1ha のプロット全体で計測されている。そのため、それぞれ、100 倍、25 倍、10 倍のウェイトを乗じて ha 当たりの値に換算した。

##### (エ) 全国推定値の計算

全国推定値の換算に当たっては、全国の格子点のうち現地調査が実施された点を対象とし、対象分類が存在する場合には (ウ) で求めた値を、存在しない場合は 0 を与えて、対象樹種の都道府県別平均蓄積を算出した。

その上で、各都道府県の NFI における全プロット数に占める森林として扱われた調査プロット数の割合を森林率とし、この森林率を国土地理院公表の「全国都道府県市区町村別面積調

(R01.10.01)」(北方領土を除く)における都道府県面積に乗じて都道府県別森林面積を算出した。さらに、この都道府県別森林面積に、樹種毎の都道府県別 ha 当たり平均蓄積を乗じて都道府県別の推定蓄積を算出し、それらを合計して樹種毎の蓄積量の全国推定値とした。

#### ② 立木本数

広葉樹 32 分類 (樹種分類) について、NFI 第 5 期の調査データを用い、全国レベルでの資源量として立木本数を推定した。立木本数は、胸高直径 1cm 以上の毎木データを ha 当たりに換算した上で合計した。さらに、胸高直径 20cm 以上、30cm 以上に限定した場合についても集計した。

## (参考) 算出方法について

「令和7年度里山広葉樹林の利活用に向けた資源量把握等調査委託事業 委託報告書」から抜粋

### 2.3.2 地域別・樹種分類別、地形条件・環境条件別の把握

広葉樹 32 分類（樹種分類）について、NFI 第 5 期の調査データを用い、地域別・樹種別の資源構成の特徴を把握した。分析に当たっては、胸高断面積及び直径階別頻度分布を指標として比較を行った。

#### ① 地域別・樹種分類別の胸高断面積

地域別・樹種分類別の胸高断面積の算出は、毎木データの胸高直径から単木ごとに胸高断面積を算出し、プロット面積の違いを考慮して ha 当たりの値に換算した上で、2.3.1①（エ）と同様に地域別・樹種分類別に集計した。

#### ② 地域別・樹種分類別の直径階別頻度分布

地域別・樹種分類別の直径階別頻度分布は、毎木データの胸高直径をプロット面積の違いを考慮して ha 当たりの本数に換算した上で、5cm ごとの直径階に区分し、地域別・樹種分類別に集計した。

### 2.3.3 25 年間の変化の把握

広葉樹 32 分類（樹種分類）について、NFI 第 1 期から第 5 期までの調査データを用い、各調査期の毎木データをもとに胸高直径を 5cm ごとの直径階に区分し、プロット面積の違いを考慮して ha 当たり本数に換算した上で、全国を対象に樹種分類別に集計した。

### 2.3.4 資源分布状況

広葉樹 32 分類（樹種分類）について、NFI 第 5 期調査データを用い、分類別に ha 当たりの本数、蓄積量、胸高直径の平均値（直径階別）、胸高直径 5cm 未満の個体割合及び枯損率（ブナ科及びサクラ類のみ）を整理し、それぞれについて全国資源分布状況図を作成した。